

## 自己点検・評価シート

### 基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点		評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定(授与する学位ごと)及び公表	1	学位授与方針は、原則として、授与する学位ごとに設定されているか。	生活環境学部は教育研究上の目的を「人間が生活空間において生き、情報を利用して多様な生活を選び、さらに快適で美的な生活環境を築く知識と知恵を生み出すことのできる有為な女性を育成することを目的とする。」とし、これを踏まえて、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を適切に定めている。	既に学位授与方針は、学位ごとに認定されているが、その内容について、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
			2	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学習成果が明確に示され、授与する学位にふさわしい内容となっているか。	記載なし(学位授与方針そのものを記載)	ふさわしい内容になっていると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
			3	上記の方針は、どのような方法によって公表されているか。	学位授与方針は学院HPなどで公表している。		
			4	上記の方針の公表において、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮されているか。			
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定(授与する学位ごと)及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性	5	教育課程の編成・実施方針は、原則として、授与する学位ごとに設定されているか。	学部の教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を受けながら、学科の教育研究上の目的、学位授与方針を定め、それに対応させながら、教育課程の編成・実施方針を定めている。	方針を定めているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
			6	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方が明確に示されているか。	明確に示されている。	明確に示されていると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
			7	上記の方針は、学位授与方針に整合しているか。	学位授与方針との関連をはかりつつ、具体的に教育内容を明示している。	整合していると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
			8	上記の方針は、どのような方法によって公表されているか。	学院HPなどで公表している。		
			9	上記の方針の公表において、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮されているか。			

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点	評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
③	<p>教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	<p>○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置            ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性            ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮            ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定            ・個々の授業科目の内容及び方法            ・授業科目の位置づけ(必修、選択等)            ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定            ・初年次教育、高大接続への配慮(【学士】)            ・教養教育と専門教育の適切な配置(【学士】)            ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等(【修士】【博士】)            ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり            ○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施</p>	<p>10            全学的に見て、学部・研究科の教育課程は、どのように編成されているか。            ※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。            ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性            ・当該学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時の学習成果と、各授業科目との関係の明確性            ・専門分野の学問の体系を考慮した教育課程編成            ・学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当</p>	<p>カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップを作成して、学位課程にふさわしい授業科目を開設し、それらの体系的編成をおこなっている。</p> <p>【生活環境学科】            1) 適切に教育課程を編成するための措置            ①令和2年度より従来の3コース制を6コース制に編成することで、これにより学生は、何を学んでいるのかがより明確になることを狙っている。            ②カリキュラム・ツリーに示している。コースを6コースにすることにより、順次性・体系性が今まで以上に明確に表現出来ているのではと考えている。            ③大学学則第28条ならびに履修登録単位数の上限による学習時間(自学自習時間)の確保を図っている。科目の単位数設定は全学的な方針に準じて設定している。            ④6コースごとにコース窓口教員を設定して、授業科目内容及び方法について、日常的に確認、修正できる体制を整えている。また学科全体としては、学科会議の機会に授業方法についてアイデア、課題などを披露しあう場を設定している(学科内FD)。            ⑤学科の教育範囲がひろいが、学科全体として必修、選択を位置づけている。            ⑥学位授与方針に基づき、6コースごとに教育内容の最適化に向けて、教科目の内容を確認する体制を整えている。            ⑦1年次前期の「初期演習Ⅰ」においては、高大接続、大学での学び・生活へのスムーズな導入をテーマとしている。            ⑧共通教育(教養教育)についての指導も行い、1年次後期の「初期演習Ⅱ」においては、専門教育への導入をテーマに6コースの内容、特徴などの学習に力点を置いている。2年次から6コースに分かれ、それぞれのコースの基礎・専門科目を、学年が上がるに順じてより専門性が高まるように体系的に授業科目を配置している。2年次から6コース(被服学コース、アパレルコース、生活デザインコース、環境デザインコース、建築デザインコース、まちづくりコース)に分かれる。2年次以降はそれぞれのコースの基礎・専門科目を、学年が上がるに順じてより専門性が高まるように体系的に授業科目を配置している。3年次後期には研究室配属を行い、卒業研究基礎演習などを経て4年次には4年間の集大成としての卒業研究(必修科目)に取り組めるようにしている。研究室配属は学生の最大の関心事の一つであるため、3年次前期より研究室訪問を計画的にさせて、学生自身が自分の学びを再確認するとともに、卒業研究の方向性を考える機会を作っている。</p> <p>2) 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施            本学科では大半の学生が就職する。そのため社会的及び職業的自立にむけて、自信をもって社会に出ていけるように指導することは極めて重要と位置付けている。学科としては、そのような考え方を共有するとともに、社会的及び職業的自立を具体的に指導することとなる研究室でのゼミ活動を活発に行うように、している。学生もそのことは自覚しており、研究室訪問と研究室配属は前記のように学科での重要イベントの一つとしている。</p>	<p>各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。</p>	<p>随時</p>

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点	評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
				<p>【情報メディア学科】</p> <p>1) 適切に教育課程を編成するための措置</p> <p>①教育課程の編成を明確にし、学生にとってわかりやすくするために、情報力教育系と生活力教育系の2系統にしている。</p> <p>②カリキュラム・ツリーに示すことによって、順次性・体系性が明確に表現出来ている。</p> <p>③大学学則第28条ならびに履修登録単位数の上限による学習時間(自学自習時間)の確保を図っている。科目の単位数設定は全学的な方針に準じて設定している。</p> <p>④学科全体においては、年2回開催される自己評価小委員会で各教員の授業科目の課題や分析を行っており、毎月開催の学科会議の機会には、授業方法についてアイデア、課題などを披露しあう場を設定している(学科内FD)。</p> <p>⑤学科の教育範囲がひろいが、学科全体として必修、選択を位置づけている。</p> <p>⑥学位授与方針に基づき、2系統ごとに教育内容の最適化に向けて、教科目の内容を確認する体制を整えている。</p> <p>⑦1年次前期の「初期演習Ⅰ」においては、高大接続、大学での学び・生活へのスムーズな導入をテーマとしている。</p> <p>⑧共通教育(教養教育)についての指導を行い、1年次後期の「初期演習Ⅱ」においては、これから本格化していく専門教育に関する理解を深めていくために、「専門教育の概要説明と履修計画」と「学科の学びと資格取得」について解説する。2年次後期には、研究室配属を行い、卒業予備演習、卒業基礎研究などを経て4年次には4年間の集大成としての卒業研究(必修科目)に取り組めるようにしている。研究室配属は学生の最大の関心事の一つであるため、2年次前期より学生に研究室紹介を積極的に行うことによって、学生自身が自分の学びを再確認する機会を設けている。</p> <p>2) 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施</p> <p>本学科では大半の学生が就職する。そのため、社会的及び職業的自立にむけて、自信をもって社会に出ていけるように指導することの重要性を学科内で共有するとともに、社会的及び職業的自立を具体的に指導することとなる研究室でのゼミ活動を活発に行うようにしている。</p>		
			11 各学部・研究科における教育課程の編成について、全学内部質保証推進組織等の全学的な組織はどのように運営・支援し、その適切性を担保しているか。	記載なし		

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点	評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
④	<p>学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	<p>○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置                      ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等)                      ・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等)                      ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法                      ・適切な履修指導の実施                      ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数(【学士】)                      ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施(【修士】【博士】)                      ・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり</p>	<p>12                      全学的に見て、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置として、どのような方法が取られているか。                      ※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。                      ・教育課程の編成・実施方針と教育方法の整合性                      ・当該学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果に応じた授業形態、授業方法の採用とその実施                      ・1授業あたりの適切な学生数の設定と運用                      ・単位の実質化(単位制度の趣旨に沿った学習時間、学習内容の確保)を図る措置                      ・シラバスの作成と活用                      ・履修指導</p> <p>13                      各学部・研究科における教育方法の導入、教育の実施について、全学内部質保証推進組織等の全学的な組織は、どのように運営・支援し、その適切性を担保しているか。</p>	<p>【生活環境学科】                      ①大学全体の方針としてキャップ制を敷いており、本学部本学科もそれに準じている。                      ②大学全体のシラバス記載方針に基づき本学部本学科もそれに準じて明記、実施している。                      ③本学科はその教育内容の性格上、演習、実習、実験、フィールドワークが多い。それぞれのコースでその内容については、工夫を継続的に行っている。また学科全体としては、学科会議で教育方法・工夫を披露しあうような場を設け、研鑽が図れるようにしている。                      ④1年次の「初期演習」で十分な時間を取って、履修指導を行っている。                      ⑤演習、実習、実験、フィールドワークについては、1授業あたりの学生数については毎年細心の配慮を行い、学科運営を行っている。</p> <p>【情報メディア学科】                      ①大学全体の方針としてキャップ制を敷いており、本学部本学科もそれに準じている。                      ②大学全体のシラバス記載方針に基づき本学部本学科もそれに準じて明記、実施している。                      ③本学科はその教育内容の性格上、演習とフィールドワークが多い。学科全体としては、学科会議で教育方法・工夫を披露しあうような場を設け、研鑽が図れるようにしている。                      ④1年次の「初期演習」で十分な時間を取って、履修指導を行っている。                      ⑤演習とフィールドワークが多いので、1授業あたりの学生数については毎年最新の配慮を行い、学科運営を行っている。</p> <p>記載なし</p>	<p>効果的に教育を行うための様々な措置を講じているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。</p>	<p>随時</p>

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点	評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
			<p>14</p> <p>全学的に見て、学部・研究科における成績評価、単位認定及び学位授与は、どのように行われているか。 ※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厳正かつ適正な成績評価及び単位認定の実施</li> <li>・既修得単位等の適切な認定</li> <li>・学位授与における実施手続及び体制の明確性</li> </ul>	<p>記載なし</p>		
⑤	<p>成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</li> <li>・単位制度の趣旨に基づく単位認定</li> <li>・既修得単位等の適切な認定</li> <li>・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</li> <li>・卒業・修了要件の明示</li> <li>・成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり</li> <li>○学位授与を適切に行うための措置</li> <li>・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表</li> <li>・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置</li> <li>・学位授与に係る責任体制及び手続の明示</li> <li>・適切な学位授与</li> <li>・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul>	<p>15</p> <p>各学部・研究科における成績評価、単位認定及び学位授与について、全学内部質保証推進組織等の全学的な組織はどのように運営・支援し、その適切性を担保しているか。</p>	<p><b>【生活環境学科】</b> 卒業研究は毎年2月上旬に「卒業研究発表会」を2日間に渡って開催し、4年生全員が学会形式で学習成果の発表を行っている。そこで教員からの質問、講評を受けている。並行して、制作作品の展示、ポスターセッションの場も設け、学習成果の把握の場として活用している。この発表会は保護者、企業の方、教育関係者などに公開しており、その際アンケート調査を行うことによって、外部の評価を得るようにしている。アンケート結果は速やかに集計して、学科会議で報告し、学科内で結果を共有するように努めている。 卒業時におけるこれら一連の発表も最終成績評価対象としている。卒業研究の評価点は卒業研究指導教員の評価点を原案として学科会議に諮り、学科内の学習成果を確認するとともに評価のバランスがとれるように配慮している。 また、本学科では制作、設計系の学習成果の集大成として毎年「学生作品集」を作成している。この作品集は、学科内学生及びオープンキャンパス時や学外者の訪問に応じて配布を行い、学習成果を公表するとともにアンケートなどを通じて評価をいただくようにしている。 学科では教育研究誌「生活環境学研究」を毎年発行している。その中に優秀卒業研究の要旨を記載し、公表するとともに学外専門家の評価も得られるようにしている。</p> <p><b>【情報メディア学科】</b> 卒業研究は、主査・副査の複数教員による質疑応答形式の中間報告会（10月～11月に開催）を経て、主査・副査の複数教員による口頭試問の最終審査会（2月上旬開催）において、明確な評価基準（論理性、問題設定力、オリジナリティ、理解力の4項目）で評価を行っている。さらに、最終審査会後には、卒業研究発表会を開催しているが、それを保護者、企業の方、教育関係者などに公開しており、その際アンケート調査を行うことによって、外部の評価を得るようにしている。 また、卒業研究に関しては、4年生全員の卒業研究を「卒業研究要旨集」としてまとめ、公開している。それによって、4年生全員が学習成果の相互確認・評価が出来ている。</p>	<p>成績評価、単位認定及び学位授与は適切になされているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。</p>	<p>随時</p>

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点	評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期	
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定(特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)</p> <p>○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発</p> <p>≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・テスト</li> <li>・ルーブリックを活用した測定</li> <li>・学習成果の測定を目的とした学生調査</li> <li>・卒業生、就職先への意見聴取</li> </ul> <p>○学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり</p>	16	<p>全学的に見て、学位授与方針に示した学生の学習成果は、どのような方法で測定されているか。</p> <p>※その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の性質、学生に求める学習成果の内容に応じた把握・評価の方法や指標の導入と運用</li> <li>・当該職業を担うのに必要な能力の修得状況の把握(特に専門的な職業との関連性が強い教育課程の場合)</li> </ul>		<p>学生の学習成果を適切に把握及び評価していると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。</p>	随時
			17	<p>学習成果を測定するにあたり、全学内部質保証推進組織等の全学的な組織は、どのように運営・支援しているか。</p>			
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価</p> <p>○学習成果の測定結果の適切な活用</p> <p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	18	<p>教育課程及びその内容、方法の自己点検・評価は、どのように行われているか(基準、体制、方法、プロセス等)。</p>	<p>本学部には生活環境学部自己評価委員会が設置され、点検・評価を行った後、大学自己評価委員会へ自己評価委員会規則第8条に基づく活動報告を年度末に実施するように規定されている。このほか、学部自己評価委員会規程第4条で、次の次項も自己点検・評価を行うことになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理念目的に関する事項</li> <li>・教育課程、学習成果に関する事項</li> <li>・教員・教員組織に関する事項</li> <li>・その他自己点検・評価に必要な事項</li> </ul>	<p>今後も、必要に応じて、自己評価委員会のもと、内部での改善・向上に向けた取り組みを引き続き行っていく。</p>	随時
			19	<p>上記の自己点検・評価結果に基づき、教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みは、どのように行われているか。</p>	<p>生活環境学科では、別の項目でも触れているように、令和2年度から従来の3コース制から6コース制に移行させている。その6コースに対応して担当教員がグループを作っており、各コースについて教育内容が適切に進行しているか、教育効果が年次進行でうまく連携しているか、などについて随時会議を開催して調整を行い、少しでも改善・向上するように努めている。</p> <p>情報メディア学科では、別の項目でも触れているように、教育課程を情報教育系と生活力教育系の2系統に編成している。それぞれの系統、そして総合的に、教育内容が適切に進行しているか、教育効果が年次進行でうまく連携しているか、などについて、自己評価小委員会や学科会議を開催して調整を行い、少しでも改善・向上するように努めている。</p>	<p>今後も、改善・向上に向けた取り組みを引き続き行っていく。</p>	随時
			20	<p>上記において、学習成果の測定結果は、教育課程及びその内容、方法の改善にどのように活用されているか。</p>			

## 自己点検・評価シート

### 基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点		評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定(授与する学位ごと)及び公表	1	学位授与方針は、原則として、授与する学位ごとに設定されているか。	生活環境学研究科では、教育研究上の目的を「基礎となる生活環境学部各学科の教育理念を基本に、専攻分野に関するより深化した教育・研究を行い、高度な応用能力と専門性を有する職業人、または自立した研究者を養成することを目的とする。」(学院HPなど)とし、これを踏まえて学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を定めている。	既に学位授与方針は、学位ごとに認定されているが、その内容について、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
			2	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学習成果が明確に示され、授与する学位にふさわしい内容となっているか。	記載なし(学位授与方針そのものを記載)	ふさわしい内容になっていると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定(授与する学位ごと)及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性	5	教育課程の編成・実施方針は、原則として、授与する学位ごとに設定されているか。	生活環境学研究科の教育研究上の目的のもと、学位授与方針を決め、それにもとづき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を定めている。 研究科は2専攻で構成されており、それぞれ研究科の目的、方針を受けて、専攻の教育課程の編成・実施方針を定めている。	生活環境学専攻は、2種類の学位を出しているため、それぞれに設定する。	2022年4月の公表時
			6	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方が明確に示されているか。	明確に示されている。	明確に示されていると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
			7	上記の方針は、学位授与方針に整合しているか。	2専攻においては、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性を図りつつ、具体的な教育内容として、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示している。	整合していると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点		評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	<p>○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性</li> <li>・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系的への配慮</li> <li>・単位制度の趣旨に沿った単位の設定</li> <li>・個々の授業科目の内容及び方法</li> <li>・授業科目の位置づけ(必修、選択等)</li> <li>・各学位課程にふさわしい教育内容の設定</li> <li>・初年次教育、高大接続への配慮(【学士】)</li> <li>・教養教育と専門教育の適切な配置(【学士】)</li> <li>・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等(【修士】【博士】)</li> <li>・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul> <p>○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施</p>	10	<p>全学的に見て、学部・研究科の教育課程は、どのように編成されているか。</p> <p>※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性</li> <li>・当該学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時の学習成果と、各授業科目との関係の明確性</li> <li>・専門分野の学問の体系を考慮した教育課程編成</li> <li>・学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当</li> </ul>	<p>生活環境学研究科の2専攻では、それぞれカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップを作成して、学位課程にふさわしい授業科目の解説、およびその体系的編成を行っている。</p> <p>具体的には、コースワークとリサーチワークを順次的・体系的にバランスよく組み合わせた教育課程を編成している。</p> <p>生活環境学専攻修士課程は、高度な専門知識と技能を身に付けるため、「生活文化情報学領域」と「生活環境学領域」の2領域・7分野で体系的に編成している。「環境デザイン分野」の教育課程では、一級建築士資格の登録に必要な2年間の実務経験を積むことが出来るようにもしている。家庭(一種)の教員免許状を取得している者は、必要な単位を取得することにより、家庭(専修)の教員免許状を取得することが出来る。</p> <p>食物栄養学専攻修士課程の3コースは、それぞれの専門性に応じた科目設定を行っている。必修科目(論文指導、特別実験)、選択必修科目群、教員免許資格取得に必要な選択科目群を設定し、体系的かつバランスよく科目配置を行っている。</p> <p>2専攻の博士後期課程では、修士課程で得られた豊かな学識、高度な専門的能力を基礎として、研究課題の決定、研究計画の作成に向けての指導助言を行い博士論文の作成を指導している。</p>	各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置(1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等)</li> <li>・シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等)</li> <li>・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法</li> </ul> <p>・適切な履修指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数(【学士】)</li> <li>・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施(【修士】【博士】)</li> </ul> <p>・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり</p>	12	<p>全学的に見て、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置として、どのような方法が取られているか。</p> <p>※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成・実施方針と教育方法の整合性</li> <li>・当該学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果に応じた授業形態、授業方法の採用とその実施</li> <li>・1授業当たりの適切な学生数の設定と運用</li> <li>・単位の実質化(単位制度の趣旨に沿った学習時間、学習内容の確保)を図る措置</li> <li>・シラバスの作成と活用</li> <li>・履修指導</li> </ul>	生活環境学研究科の生活環境学専攻と食物栄養学専攻の2専攻とも、学生を研究室に配属して、専門の教授陣による親密かつ徹底した教育研究を行っている。授業では、専門分野の最新の学術論文の抄読、意見発表、討論等を積極的に行っている。	効果的に教育を行うための様々な措置を講じているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	



基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点	評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</li> <li>・単位制度の趣旨に基づく単位認定</li> <li>・既修得単位等の適切な認定</li> <li>・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</li> <li>・卒業・修了要件の明示</li> <li>・成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり</li> <li>○学位授与を適切に行うための措置</li> <li>・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表</li> <li>・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置</li> <li>・学位授与に係る責任体制及び手続の明示</li> <li>・適切な学位授与</li> <li>・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul>	14 <p>全学的に見て、学部・研究科における成績評価、単位認定及び学位授与は、どのように行われているか。 ※ その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厳正かつ適正な成績評価及び単位認定の実施</li> <li>・既修得単位等の適切な認定</li> <li>・学位授与における実施手続及び体制の明確性</li> </ul>	<p>生活環境学研究科の2専攻とも成績評価はシラバスに評価方法を具体的に明記し、授業への積極的参加度、課題レポートの提出を中心として、厳格に成績評価、単位認定を行っている。</p> <p>学位授与については、課程修了要件、学位論文審査の手順は修士課程、博士後期課程ともに「大学院履修便覧」に明記し、学生に周知し、厳格にプロセスを踏んでいる。学位論文の審査については、両専攻とも主査、複数の副査により実施し、厳格かつ適正な審査を心掛けている。修了判定は研究科委員会で厳正に行っている。</p>	成績評価、単位認定及び学位授与は適切になされているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定(特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)</li> <li>○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発</li> <li>《学習成果の測定方法例》</li> <li>・アセスメント・テスト</li> <li>・ルーブリックを活用した測定</li> <li>・学習成果の測定を目的とした学生調査</li> <li>・卒業生、就職先への意見聴取</li> <li>○学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul>	16 <p>全学的に見て、学位授与方針に示した学生の学習成果は、どのような方法で測定されているか。 ※その根拠として、下記の実際の状況も確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の性質、学生に求める学習成果の内容に応じた把握・評価の方法や指標の導入と運用</li> <li>・当該職業を担うのに必要な能力の修得状況の把握(特に専門的な職業との関連性が強い教育課程の場合)</li> </ul>	<p>生活環境学専攻においては、履修便覧にもとづき教科目を学習するとともに、修士、博士課程の一年次から研究室配属を行い、論文作成に向けて研究を開始している。</p> <p>修士論文、博士論文は履修便覧に示した厳格な評価プロセスを経て、はじめて学位が授与される。</p> <p>具体的には、修士論文は修士2年の夏ごろに中間報告を行い、複数教員の指導・評価を受ける必要がある。その後最終的には修士論文発表会での評価を受けたのち、研究科委員会にて学位授与の承認を受ける。</p> <p>博士論文は、専攻内の規程にもとづき専門分野に対応した学会における査読付き論文の掲載等の成果を踏まえたのち研究科委員会での承認のもと、予備検討委員会、論文審査、公聴会を経て、最終的には研究科委員会において学位授与の可否を審議している。</p> <p>また、修士論文、博士論文の要旨は、教育・研究誌「生活環境学研究」に掲載することにより、広く社会の評価を得られるように努めている。</p> <p>食物栄養学専攻においても同様のプロセスを経て、修士、博士の学位授与を行っている。修士論文、博士論文の要旨については、参加自由の公開発表会(公聴会)において配布するとともに、公聴会参加見込み者数よりも多めに印刷物を用意し、請求があれば取得できるよう配慮しており、広く社会の評価を得られるように努めている。</p>	学生の学習成果を適切に把握及び評価していると考えているが、改める必要があるかどうかは、常に点検する。	随時

基準4 教育課程・学習成果

	評価項目	評価の視点		評価者の観点	現状説明	改善方策 (予定含む)	改善時期
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	18	教育課程及びその内容、方法の自己点検・評価は、どのように行われているか(基準、体制、方法、プロセス等)。	<p>研究科には生活環境学研究科自己評価委員会が設置され、点検・評価を行った後、大学院自己評価委員会へ自己評価委員会規則第8条に基づく活動報告を年度末に実施するように規定されている。このほか、研究科自己評価委員会規程第4条で、次の項目も自己点検・評価を行うこととなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理念目的に関する事項</li> <li>・教育課程、学習成果に関する事項</li> <li>・教員・教員組織に関する事項</li> <li>・その他自己点検・評価に必要な事項</li> </ul>	今後も、必要に応じて、自己評価委員会のもと、内部での改善・向上に向けた取り組みを引き続き行っていく。	随時
			19	上記の自己点検・評価結果に基づき、教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みは、どのように行われているか。	<p>本研究科のうち、生活環境専攻については、入学定員を近年満たしておらず、院生数が少ないために、経常的、組織的な点検・評価が出来ていないのが課題である。</p> <p>食物栄養学専攻については、入学定員を満たす年と満たさない年があること、令和2年度の実践管理栄養コースのように入学者がゼロの年があるなど、近年在籍者数にばらつきが見られている。そのため、組織的な点検・評価を行うことが困難となっていることが課題である。</p>	<p>生活環境学専攻の志願者を増やすため、大学入学の初年次から、大学院に関する情報提供をするとともに、卒業研究指導教員には、大学院への進学の一層の奨励をお願いする。</p> <p>食物栄養学専攻においては、学部在籍中の学生に対する大学院進学への奨励に加え、現職の社会人に対するPRを今後とも積極的に行っていく。</p>	随時
			20	上記において、学習成果の測定結果は、教育課程及びその内容、方法の改善にどのように活用されているか。			